

## 計算機数学 NO.7

第7回目の主題： ファイルの入出力,

◎ maxima にファイルを読みこませる。

(1) (例えば c:\texdoc に) keisankixxx.mac というファイルを作成。

- windows + E でエクスプローラを起動。
- エクスプローラで c:\texdoc の中に入り (ダブルクリック), keisankixxx.mac という空のファイルを作る。(右クリック→新規作成→テキストファイル)
- 作ろうとするテキストファイルの拡張子は始め .txt になっているので.tex に変更のこと。(“名称未設定.txt” を “keisankixxx.mac” などに変える。)

(2) keisankixxx.mac に内容を書き込む。

- notepad(メモ帳) で開く。(右クリック→プログラムから開く→既定のプログラムからの選択→メモ帳)
- 内容は、maxima に入力したい内容のまんまで良い。
- ただし、各行末は ; (セミコロン) で終わらせること。

(3) wx maxima の「ファイル」→「バッチファイル」で実行。

◎ TeX 側でファイルの内容をそのままタイプする方法 (verbatim の進化形)

(1) \usepackage{verbatim} が必要。

(2) ファイルを予め作成しておく。

(3) \verbatiminput{ファイル名} で OK.

◎ タイトル、セクション、著者名の入れ方。

下のとおり。とくに \maketitle を忘れやすいので注意。

```
\documentclass{jarticle}
\usepackage{amsmath,verbatim}
\begin{document}
\title{これがタイトルだっ}
\author{ディオ ブランドー}
\maketitle
\section{この章の始まり}
本文だっ。下の素晴らしいプログラムを見よっ。
\verbatiminput{keisanki07.mac}
\end{document}
```

---

◎ maxima の tex() で出力されたものを latex でコンパイルするとエラーが出る。

(1) はじめに load("mactex-utilities.lisp"); と maxima に打っておけばよい。そのあとは maxima から tex() で望みのものが出力される。

(2) もしくはファイル→エクスポート→でエクスポート窓を出し、xxx.tex にセーブする。xxx の部分は何でも良いが、拡張子を .tex にしておくことは大事である。xxx.tex をメモ帳等で開くと、tex のソースコードが載っている。コピペしても良いし、xxx.tex 自体を texworks でコンパイルしても良い。

◎前回と同様の要領で、「問題と解答」を作成せよ。問題自体は前回と同じでよい。さらにその答を maxima で求めよ、  
今回は次のことに注意すること。

- 問題文及び解答は TeX で作成 (ks07.tex) すること。
- maxima の入力は ks07.mac を作成することにより行うこと。
- TeX 側では、ks07.mac を \verbatiminput を用いて貼りこむこと。
- タイトルと、作成者の名前を記入すること。また、(多少わざとらしくなってしまうが、) \section を用いて章を一つ (または複数でもよい) 立てること。
- (貴方に対する挑戦) 追加問題として、 $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \cos(x)}{x^2}$  を求める問題を付け加えても良い。TeX のほうの詳細は教科書を用いて自分で調べること。maxima の方は wxmaxima のメニューをよくよく見ればできる。もしくは逸見先生のマニュアルをダウンロードのうえ参照のこと。

- メールの件名は「計算機数学レポート No.7」。
- メール本文には必ず学籍番号を記入すること。(アドレスが学籍番号の場合は書かなくても良い。)
- 出来上がった .pdf ファイルを添付すること。
- 解決できない問題がある場合には、その旨メール本文に記入してください。その場合は .tex ファイルと .mac ファイルも添付してあると助かります。